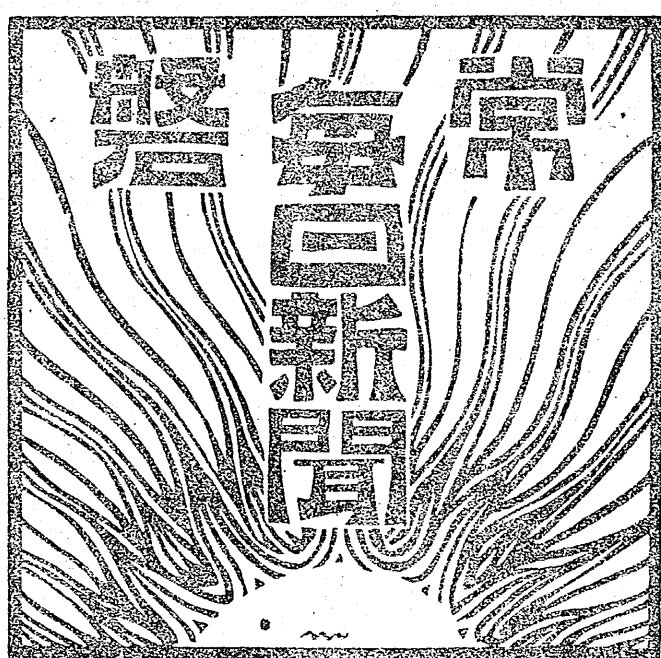


日刊 印刷部 川崎文治



八月四日夕刊

定部金... 印刷部 川崎文治

中元大賣出し 新八月四日... 諸橋吳服店

新八月四日 ヨリ七日間... 諸橋吳服店

獨學者の爲に 破浪生 然し又如何に健全なる精神と肉體とを持つて居ても...

尚醫院釋昭文葬送の際には多... 親戚友人 磐城高等女學校

天稟院新益に相當し候へ共時節柄提灯等の御贈與一切御辭退申上候間...

夜間營業 每夜九時まで 特價品 山崎合名營業部

新意匠の 戒名入提灯 スガノヤ提灯店

岐阜提灯廉價提供 いづや

麥湯接待 御通りの節は召しあがれ 喜多林之助

尚醫院釋昭文葬送の際には多... 追て忽卒の際に有之葬儀通知洩もこれある...

病院組織 内科、小兒科、外科、皮膚泌尿科... 警城共濟病院

舊盆の贈答用品は 何れも格段の安値

各商店が賣出しに精進 吳服類等は二割安

舊盆の贈答用品として例年の通り市内商店に於ては目下それ／＼賣出しに精進しつゝあるが本年の相場は化粧品、食料品、酒類等の場合をのぞきては昨年より比し何れも格段の安値である即ちその種類別下落割合を掲ぐれば吳服太物及びカヤ類一割五分乃至二割安ハンカチ一、二割安、洋品雜貨類一割乃至一割五分安、陶器類一割安、文房具類五分安岐阜提灯一割五分安等である

夜間賣出し 食糧品廉賣

平町土橋山崎合名會社の營業部にては明五日より五日間納涼がてらに杖引く人々の爲めに各種食糧品の特價品を用意し毎夜九時迄夜間賣出しを爲し日頃の華客に便宜を計る由

長植鐵道 平地方の運動

石城郡植田町から岩瀬郡長沼町に通ずる長植鐵道は布設豫定線となつて居り且つ過般開かれた本縣政友支部大會に於ても右鐵道は黨案として達成の爲め可決したのであるが同問題促進に就

二百五圓盜んで 急に大盡氣取り

南町の白首に現を抜かし 百餘圓の豪遊

住所不定石城郡入遠野村大字入遠野字落合生れ無職坪沼幸（三）は去月廿八日午前六時頃千葉縣葛飾郡國分村大字北荒井猶橋嘉平方に忍入り現金二百五圓を窃取し平町に逃走し來り數軒の飲食店に登樓豪遊し百餘圓を浪費し居たる處平署に逮捕された

新舊署長 迎

六日谷口にて 郡山警察署長櫻村慶、保原警察署長近藤千歌、平警察署長猪狩清の三氏の爲め伏見彦衛、井上茂作、草野順平の諸氏發起となり來る六日午後六時より谷口樓に於て歡送迎會を催す筈にて會費は三圓出席希望者は平署中役場、平消防組等に申込まれたこと

職業紹介 成

去月中に於て 平職業紹介所の七月中に於ける成績は左記の如くであるが紹介數四十五に對し就職數卅内外なるは折角紹介してやつても其儘紹介狀を握りつぶして求人先を訪れなかつた様な關係からである（求人數）男四十二名、



朝顔を大きく 咲かす法

施肥の一回の分量は一鉢に付て五勺が程度で盛夏の頃

小名濱の商港と 密接不離の平町

農工銀行頭取 白井博之氏談 此際町民の發奮を望む

小名濱商港計劃に對する淺野翁の百萬圓提供問題に就ての経緯は大体昨報の如く今や該問題は逐日その確實味を加へ來り、一般多大の期待を以てその成りゆきを刮目しつつあるが小名濱商港問題の展開如何が諸種の關係上繋つて平町の將來に極めて密接重大の關係にある所に就き目下四倉に避暑中の本縣農工銀行頭取白井博之氏はこの際平町に對する希望として次の如く語る

自然的 要素の外、

七背部及沿岸諸方に對する交通運輸の便否、八旅客及貨物の多寡集散、九人口増殖、一〇産業發達の程度等や否やによつて定まるものである、即ち船舶の出入乃

平町物價

品名	單位	價格
白米	一升	三九〇
白米	一升	三八〇
白米	一升	三七〇
白米	一升	三六〇
白米	一升	三五〇
白米	一升	三四〇
白米	一升	三三〇
白米	一升	三二〇
白米	一升	三一〇
白米	一升	三〇〇
白米	一升	二九〇
白米	一升	二八〇
白米	一升	二七〇
白米	一升	二六〇
白米	一升	二五〇
白米	一升	二四〇
白米	一升	二三〇
白米	一升	二二〇
白米	一升	二一〇
白米	一升	二〇〇
白米	一升	一九〇
白米	一升	一八〇
白米	一升	一七〇
白米	一升	一六〇
白米	一升	一五〇
白米	一升	一四〇
白米	一升	一三〇
白米	一升	一二〇
白米	一升	一一〇
白米	一升	一〇〇
白米	一升	九〇
白米	一升	八〇
白米	一升	七〇
白米	一升	六〇
白米	一升	五〇
白米	一升	四〇
白米	一升	三〇
白米	一升	二〇
白米	一升	一〇
白米	一升	〇

臨時講演會

六日夜七時から 平町十三日會にては六日午後七時より平銀行樓上に於て臨時會を催し同文書院教授坂本義孝氏の『支那問題に就て』及び東北學院専門部教授堀内眞澄氏の『靈的新日本の創造』と題する各講演ある由

赤井桃品評會

石城郡赤井村農會主催桃品評會は明四日赤井驛前共同出荷場にて開催小嶋農試分場技手審査する由

においては一合位づゝ與へます、施肥の時期は夕方か早朝葉にかけないやうにしないと葉が枯れてしまひます、施肥した日の夕方は灌水だけに止めますそれには水だけのなまぬるい水を汲み置きなまぬるい水を冷たいのをかけてはなりません、そして花が開いたならば

關係に つものであ

町との伸張は小名濱の開發を招來する所以に外ならない斯して陸の平と海の小名濱とは將來益々唇齒輔車の關係に つものであるとは恐らく何人も疑ひをささむ餘地無き自明の理でこれが實現に就ては小名濱地元町民の覺悟もさるゝ乍ら小名濱港の發達上殆ど不可分の立場に置かれて在る平町民としても此の際發奮一番以てひたすらその實現の一日も速かならん事を劃すべきである云々

平第一校臨海學校

喜びと、さわぎの一夜を

陪審法の協議

裁判所管内戸籍吏會は本月下旬植田小學校にて開會陪審法に關する協議があると

明かして雨あがりの海岸へ朝の散歩に出かけた一同素足でアサリ掘りどれた／＼無慮數百箇の朝飯をすき腹につめ込んで朝の仕事をす。曇つてゐたが元氣で飛び入つて泳ぐ、うき袋をたりにて犬泳ぎ、自己流……午後には晴れた。砂は少し熱くなつてゐる、泳いでゐる中からもうおやつのかき出し、宿舎に歸り引地先生御苦心のおやつキャラメルをいたゞいてから自由の時間。夕飯を五時半に終へて築港方面に夜の海岸に散歩に出かけた